

学会動向

フォーラム・研修会等参加報告

フォーラム・研修会名

私立大学情報教育協会 教育改革IT戦略大会

<http://www.juce.jp/>

報告者：龍 昌治

<大会概要>

教育改革を促進するため教育改革推進の基本問題、ICT活用に伴う教育政策、教育効果を高めるICTの活用方法、最新の情報技術及び情報環境などの専門的知識に関する講演や事例紹介のほか、教育現場の課題解決を模索するためテーマごとに研究討議している。新しい取り組みとして、公募によるICTを活用した教育や支援の事例紹介、大学・企業連携によるICT導入・活用事例紹介（ポスターセッション）もあわせて実施された。

今回参加した全体講演と、分科会形式での自由討議セッションのなかから、特に参考になった講演や討論の概要を報告する。

<全体講演> 開催： 9月1日 場所： 私学会館

●高大連携接続テストの動向～「選抜」から「相互選択へ」～

高大連携に関する動きとして、高大連携接続テストの背景、現状、今後の予定について。佐々木隆生 氏（北海道大学公共政策大学院 特任教授）

●大学全入時代の高大接続の基本的考え方

初年次教育や高大連携の取り組み事例を交えながら、大学全入学時代における高大接続への考え方について。長谷川 信 氏（青山学院大学副学長）

●e-Learningによる入学前教育の取り組み

ICTを活用した入学前教育など、高大連携の取り組み事例。川野辺 裕幸 氏（東海大学教育支援センター所長）

各大学における個別の取り組み事例は、それぞれの学系や立地などの勉学条件なども異なるため、そのまま取り入れることはできない。また取り組み自体が有効であったかどうかのとらえ方もさまざまであろう。一方で多様化する高校を背景に、従来のセンター試験とは異なる高大接続テストの構想は、達成度把握だけではなく、高大の連携による教育改革への取り組みとして評価できよう。入試改革と併せ、入学前教育と初年次教育を連携させた、それぞれの大学での教育スタンダードの設定が不可欠であるといえる。

＜分科会＞ 開 催： 9月2日

●初年次教育と専門教育との連携分科会

大学の教育理念・教育目標と連動した体系的な初年次教育や専門教育との連携。

- ・初年次教育を基本とした学士課程教育の構築 菊池 重雄 氏（玉川大学）
- ・専門教育との連携による初年次教育 高橋 正克 氏（長崎大学）

●情報リテラシー教育の現状と今後の取り組み分科会

専門教育と連携した学部規模での情報リテラシー教育の取り組みと、学生が最低限身につけるべき能力。

- ・理工系教育と情報リテラシー教育 榎原 博之 氏（関西大学）
- ・経済学教育と情報リテラシー教育 立田 ルミ 氏（獨協大学）

初年次教育の内容は、各大学でさまざまであるが、セミナーだけではなく、ガイダンスや個別の支援体制などを含めた、初年次でのすべての教育的経験が重要であることが示された。また二年次のスランプを防止し、専門教育への接続連携を図るために、アカデミックスキルの構築が重要となる。

情報リテラシーは、アカデミックスキルの一つであり、理系・文系の区別なく必要である。単なるコンピュートリテラシーのみでなく、メディアリテラシーや問題解決プロセスなどの学習が不可欠である。これらは企業・社会においても、普遍的に必要な力であり、大学における教育スタンダードといえる。

本大会の特徴は、学問体系にとらわれず、幅広く教育改革のためのIT活用策を、事例とともに報告討議することにある。このため、各自の専門分野ではない授業科目や、初年次教育などの実践事例をもとに討議するのは新鮮であり、また発見も多い。同時に、教員ばかりではなく、教務事務職員など直接教育支援を担当する者同士が、対等に意見交換できる機会は貴重である。

教育改革に情報技術を利用しようとする試みは、決して新しいことではない。また一部の教職員にのみ可能な取りくみでもない。インフラとしての情報システムは整ってきており、学生や教職員のハードルは低くなっている。

一方で、事例報告における成功事例は、大規模で組織的な取り組みが多い。学部や大学を挙げての取り組みは効果も大きいですが、授業単位や個人ごとの積み重ねが教育改革の基本であろう。また失敗例から学ぶことも多いため、講演形式よりも少人数によるセッション形式による討議が望まれる。

今回の事例報告の中でも、初年次教育の担当者が集まらないことへの対策として、昇格審査へのポイント増加や、関連学会への参加費支援などの工夫があった。本学においても、本大会への積極的な参加を促すとともに、ミニ教育改革報告会のような地道な取り組みが必要であると考ええる。